

# 第9回神奈川活性化サロン テーマ「地域産業論とSDGs(持続可能な開発目標)」

◇ 平成31年2月8日開催

◇ ゲストスピーカー 株式会社大川印刷 代表取締役 大川 哲郎 様

「地域産業論とSDGs」発表概要

## ○ SDGsに取り組む背景

- (株)大川印刷は1881年創業の印刷メーカー。企業は存続年数に関わらず「地域や社会に必要とされなくなった時点で消えていく」と感じ、自社にとってのCSR(企業の社会的責任)を「地域や社会に必要とされる人と企業になる取組」と定義付けている。
- 本業を通じたCSRこそが身の丈に合った形で無理なく継続的に取組むことができると考え、印刷を通じて社会貢献を実践する「ソーシャルプリンティングカンパニー(社会的印刷会社)」として事業に取り組んでいたところ、2015年にSDGsが登場。SDGsには自社がビジネスとして取組むべき課題が整理されており、本業を通じてSDGsに取り組むことがビジネス機会獲得にも繋がると考え、SDGsの要素を経営に実装した「SDGs経営計画」を策定し事業を推進。
- 2017年の持続可能な調達の国際規格「ISO20400」発行や、経団連による「Society 5.0の実現を通じたSDGsの達成を柱とした企業行動憲章の改定」などを受け、グローバル企業や大手企業を中心に社会や環境等に配慮した調達意識が高まっており、率先してSDGsに取り組む、対応を行うことが新たな事業分野の開拓に繋がる状況となってきた。

## ○ 「SDGs経営計画」を通じた取組

- 従業員全員参加によるワークショップを開催し、ボトムアップ型で経営計画を策定。議論を重ねるなかでSDGsのゴールに合わせた自社の取組や目標をマッピング。各項目に関心を持つメンバーが集まりプロジェクトチームを立上げ、それぞれの取組を進めている。具体的な取組(一部)は以下のとおり。
- 北海道下川町の森林バイオマス活用事業、山梨県県有林活動温暖化対策プロジェクトなどによるCO<sub>2</sub>削減に関するクレジットを購入することで、印刷事業のCO<sub>2</sub>排出量を打ち消す「カーボンオフセット」を活用、日本で唯一の「ゼロカーボンプリント」を展開。取引企業にとってはCO<sub>2</sub>削減実績となり、消費者にとってもCO<sub>2</sub>ゼロ表示の商品を選択することで温暖化対策に貢献することができる。
- 違法伐採による材料を使用していないことを第三者認証するFSC森林認証紙や石油系溶剤を全く含まないインキの使用等、環境に配慮した印刷を推進。職場環境の改善としても化学物質過敏症の方へのダメージ軽減に繋がっている。

## ○ 地域中小企業がSDGsに取り組む意義

- 国内企業の99.7%は中小企業。中小企業がSDGsにシフトすれば、社会に大きいインパクトを生むことができる。
- 中小企業が単独で取り組まなければいけないわけではなく、むしろSDGsをテーマにするクラスターと地域関係者で連携して取組むことで成果が期待できる。
- SDGsに取り組むにあたっては、過去の取組をSDGsに紐付けて終わるのではなく、未来に向けて継続・発展させていく必要がある。
- (株)大川印刷では、「ゼロカーボンプリント」や環境印刷への評価、SDGsに熱心な企業としての認知度向上により、新規取引が大きく増加するなど、ビジネス機会拡大に繋がっており、他にも社会から評価されることで従業員の意識が向上するなど、人財育成面でも成果が出ている。
- SDGsに取り組む最も大きい意義は、「自分のやっている仕事と社会、あるいは国際的な問題との接点ができることでモチベーションに繋がる」ことにあると考えている。